

会山行報告 (NO・2302・今季・第16回山スキー)

報告者・後藤隆徳

2002年・春山合宿

2002年4月26日(夕)～5月2日

日本オート・ルート＝室堂～五色ガ原山荘(泊)～薬師岳～太郎平小屋(泊)～北ノ俣岳～黒部五郎岳～三俣蓮華岳～双六岳～双六山荘(泊)～槍ガ岳～槍沢～上高地

パーティー＝後藤隆徳(55)・加藤秀子(53)

オート・ルートとは、フランス語で「高い道」の意。元々はヨーロッパ・アルプスの氷河から氷河をスキーで滑降し縦走するルートと呼ぶ。

日本オート・ルートはそれを模したものだが、ヨーロッパのそれとは比べ様も無い。しかし、日本国内で考えられるオート・ルートとしては、その長さ、大きさ、高さ、困難さは第一級のもので、最高級の技術力、体力、精神力を要求される。

山スキーを始めた者なら必ずトレースしたいルートと同時に、今後、ヨーロッパ・アルプスを目指す者の登竜門となっている。

初日 4月26日(曇り)

下土狩発17:00～扇沢21:00(車中泊)

待望の日本オート・ルートの始まりである。本来は10周年記念山行で、本場のオート・ルートのハズだったが……。まあ、またいつか所か。諏訪SAで入浴した。扇沢は連休初日で空いていた。無料駐車場に入れ車中泊した。

第1日目 4月27日(快晴)

一の越から遠望する、遥か彼方の槍ガ岳をめざす

時間 扇沢7:30～室堂発9:00～一の越10:05～龍王岳と鬼岳とコル11:00～ザラ峠13:00～五色ガ原山荘14:30(泊)

今日の一言

後藤＝50名のギャラリ－に見送られスタート。ザラ峠の滑りは「凄い」の一言。

加藤＝ザラ峠の滑りは、今までにない胸がすぐ程の急斜面。ワオー、ウウウ。

荷物は後藤18Kg、加藤16Kg。歩行時はこれにスキーが着く。扇沢の積雪はマズマズで一安心。キップ購入を2人で並び、改札の順番がかなり遅れたが、これがかえって良かった。お陰で最初に室堂着。信州側は雲が多かったが、越中側は快晴で陽光が溢れる。立山は寡雪で地肌が見える。まず、剣岳に向かい命日が近い柳下君の冥福を祈り、私達の山旅の

安全を祈願する。

登山者を含めゾロゾロと一の越に向かう。一の越は50人以上の人で溢れている。しかし、御山谷に向かうのは私達外二名のみ。その人達もオート・ルートでない。

何処かのオバさんの激励を受け、ギャラリーの視線を感じ長い旅のスタート。龍王岳デブリ 末端の2500mを目指す。仰げば龍王岳と鬼岳のカールが広がる。シールで上り簡単にコルに立つ。

ここから「山と溪谷」・北田啓郎著「スキーツアー・入門とガイド」では、「・・・稜線の西側を斜滑降・・・」とガイドされるが、西側は断崖絶壁で通過は出来ない。東の誤りだ。ただ、東面がハッキリしないのでグズグズの稜線を歩き獅子岳に立つ。振り向くと単独が来た。ここから本日のハイライト、ザラ峠の滑りだ。30度～40度の急斜面が峠まで300m程続く。吸い込まれるような感じで落ちて行く。過去経験した中では、最大の斜度だ。加藤も転倒せず続いた。上手くなったものだ。

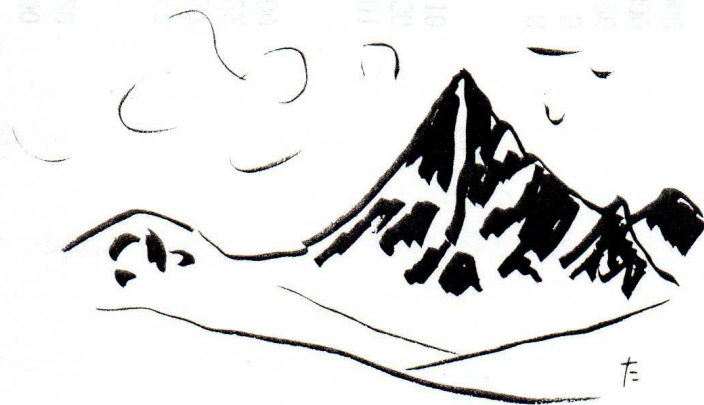
峠で大休止。大昔、ここに本当に牛車が通ったのだろうか。ひと上りで五色ガ原に出て、山荘を目指す。ガスの中、除雪機のエンジン音が微かに聞こえる。温かい小屋に春を告げる鼓動だ。

山荘に着くと除雪中の主人が笑顔で迎えてくれた。この山荘、五月は最近営業を始めたばかり。営業といっても、除雪が済むと下山する。ここがやってないとオート・ルートは更に困難になる。ありがたいものだ。ちなみに、入山はヘリだが下山は歩きとのこと。

日当たりの良い部屋を選び濡れた装備を乾した。同宿は千葉の岡山君のみ。窓を覗くと、以後しばらく行動を前後した、もう一人の雪洞 単独行が鳶（とび）岳をトラバースしていた。

今日のポイント

1. トロリーバスは後から乗り、スキーを荷物車に積まず手持ちで行った方が良い。積むと取り出すのに時間が掛かり、移動が遅れる。
2. ガスると龍王岳と鬼岳のカールが分かり難い。
3. ガスると五色ガ原山荘が分かり難い。





五色ヶ原山荘～鳶山～越中沢岳～スゴ小屋～間山～北薬師岳～薬師岳～薬師峠～太郎平小屋

長大な尾根の縦走に、アルプスの奥深さを十二分に堪能する

時間 起床4:00 山荘発5:00～鳶山～越中沢岳7:00～スゴ小屋10:05～間山～北薬師岳14:05
～薬師岳15:20～薬師峠16:25～太郎平小屋17:00

今日の一言

後藤＝ルート中、最大のポイント。それにしても薬師岳は大きい。加藤の体調は最悪だったが、良くやった。

加藤＝ピークの向こうに又ピーク。一体何時になったら太郎に着くの? そんな長くもデカイ山だった。熊の足跡にビツクリ! 自分のタラコ唇にビツクリ! とても疲れた～。

行程の長さを考えて早めの食事にしてもらおう。今日のコースはきついから、しっかり食事をとるよう言われ、口の中に無理やりご飯を詰め込んだ。逆噴射しそうになるのを、味噌汁でかろうじて流し込み、ヨシッ今日は食べたぞ・・・と身体に気合を入れる。

手早く身支度を済ませ、小屋の若いご夫婦の見送りを受けて出発。無風、快晴。暖かい。忽ち汗が吹き出してきた。五色ヶ原を横切り鳶山をトラバース。東側はヌクイ谷にスッパリ切れ落ちた急峻な地形だ。小屋の主人が滑落者が多いと言っていたのも頷ける。板を担いでアイゼンに履き替え、南西の肩まで登り、夏道を下る。

見渡す限り、雄大な山岳風景が広がる。汗だくの身体に冷たい風が心地良く、まるで夏の登山をしているような気分だ。歓声をあげながら賑やかに、越中沢岳まで広い尾根をシール登行。下りは一転して急なヤセ尾根になり、アイゼンに履き替えて夏道を下る。ゴツゴツした岩尾根、雪の急傾斜の下りと兼用靴ではだいぶ苦労した所である。油断すると腰までスッポリはまってしまい、ザックの重みで身動きとれず四苦八苦。足の先がブラブラ宙に浮こうものなら、ブラックホールにでも落ちたような恐ろしさで背筋が凍りついた。体力が激しく消耗したところである。

スゴ小屋手前のピークで雪洞泊の単独者に会う。聞けば私たちと同じ行程だ。これでオートルート縦走は、昨夜交流した千葉の岡山さんとの4人だけか。少しづつ遅れ始めた私はマイペースで歩く。スゴ小屋は赤い屋根が僅かに見える。その上で先行していたCL、岡山さん、雪洞泊者が陽射しを浴びて、にこやかに談笑していた。厳しい縦走をしている緊迫

感が何も感じられない長閑な光景である。自分もホッとして近づいて行くと、『さあー。遅くなるから行くゾ』と立ち上がるCL。『エエッ。それはないよ。今着いたばかりだヨー』岡山さんは私と入れ替わりに出発。雪洞泊者は屋根の上で横になり目を閉じた。雪洞泊は気が楽でいいと。お茶で乾いた喉を潤し、ミカンで甘みを取り、休む間なく出発。

間山の手前でかなり大きい熊の足跡を発見。爪の跡がしっかり残っていた。もう冬眠から覚めたのか。出くわしたくないと念仏を唱える。雪が腐り始め、かなりの急斜面にエッジが効かない。ジグザグ登行に足も重く遅れがちだ。アツという間にCLの姿は視界から消えた。残されたトレースを忠実に辿っていく。途中から樹林帯の吸い込まれるような斜面をトラバース。奥深さを感じさせる幾重にも重なる山を目の端に捉えながら、素晴らしい景観と静けさに身体は疲れていても気持ちは十分高揚できた。

間山を抜けると、大きな北薬師がデンと聳え立つ。コルで待つCLに『遅い！グズグズしていると明るいうちに着かないぞ』と叱咤される。歩き始めて既に9時間。疲れが限界にきていた。その先を歩く岡山さんが小さい。雪洞泊の男性は北薬師の頂上直下だ。CLが気を揉むのも当然だった。右手の谷間からガスがあがり北薬師が時折隠れる。遅れがちな私に、俺の前を歩くと促すCLにアイゼンと水を持ってもらい再び歩行を開始。

北薬師の先にヤセ尾根が更に続く。薬師岳が其処に見えてなかなか着かない。ひたすら歩いてやっと頂上に立った。ホッとした表情で『これで明るいうちに着ける目処がついた』とCLの指す方向に目をやると、ある。ある。薬師峠のなだらかなその先にポツンと太郎平小屋が見えるでないか。それにこの先は滑りだゾ、と着く喜びと、歩かないで済む嬉しさに今までの疲れも何処かへ吹っ飛んだ。

薬師岳の美味しそうなスロープは、昨年、太郎平から眺めた私達にオートルート縦走の夢を膨らませた。しかし、その時は尾根を境に半分位しか雪がなく、何処を滑るんだろうねと不思議に思ったものだったが、雪が少ないと言われる今年に、此処だけは多いのだろうか。目の前の広い斜面にそんな事がチラッと頭をかすめた。

今日初めての滑り出しに滑降準備ももどかしい。雪面は少し荒れたザラ目状態。思いっきり飛ばすと、オットット。案の定、雪が引っ掛かってものの見事に転倒。でも風をきり身体全体で味わうスピードは超最高の気分だ。あんなに歩くのが辛いと、悲鳴を上げていた足が嘘のように軽くよく動く。薬師平から途中、樹林の切れた所から薬師峠を目指して滑り込み、太郎平小屋へ明るいうちに辿り着いた。

先着のCLが『お疲れさん。良く頑張った』とビール片手に出迎えてくれた。ホップが五臓六腑にジワーッとしみわたりウツマ〜イ。振り返って仰ぐ薬師が、微笑んでいるようで胸がキュンとする。疲労困憊した身体は、えもいわれぬ満足感と充実感で一杯に満たされた。

太郎平小屋は、飛越トンネルから神岡新道経由で入山した人が多く、小屋は結構賑わっていた。食堂の端に畳が一行に敷かれ、其処に置かれたコタツが懐かしい。夕食はご飯が美味しく、お替りをいただく。明日は7時に出発だ。今日はゆっくり休める。唇はカサカサにブククリ膨らんで、タラコのように気になっていたが、疲れの方が先決でそのまま寝てしまった。翌朝見事なまでのタラコ唇に変貌していた。味噌汁が痛い、しみるの何のって・・・

イケズ〜

快晴のこのルートは山スキーの天国だった

時間 起床5:00—太郎平小屋発6:30—北ノ俣岳7:55—黒部五郎岳10:00—五郎小屋10:35—三俣蓮華岳12:50—双六岳14:15—双六小屋14:45 (泊)

今日の一言

後藤＝双六の滑りは槍に向かってGO～、GO～、GO～。

加藤＝去年は目が点になったカール壁。今年は突っ込んで滑る。成長したな～。

天候は安定しているし、昨年経験済みのルートなので、朝食をシッカリ食べて出掛ける。昨日ずっと一緒だった雪洞の単独行は、直ぐ上に泊まっていた。ストックを振ってエールを送る。北ノ俣岳では昨年、皆で遊んだことを思い出した。

赤木岳を横断し中俣乗越までは、昨年と違い雪が締まり、快適にスピードに乗れた。黒部五郎の上部で物音がすると思ったら、単独が素晴らしいフォームで落ちて来た。惚れ惚れする滑りだった。それにしても単独が多い。不思議な気がする。山スキーの場合、人口が少ないのでパートナーに恵まれないのか。次回は、逆ルートもやりたい。剣はこの辺りで薬師の影で見えなくなる。蟻の様だが少しずつ着実に前進している。

カール壁に達した。意外だが、這松が露出せず、昨年より雪が多かった。薬師岳も昨年より多かった。停滞日に小屋で聞いた話では地域で違い、今年は越中は多く、飛騨は少ないとのことだ。

やや左にトラバースして壁に落ちる。昨年ほど緊張は無い。加藤も全く問題無かった。昨年はカールの底で休憩したが、面倒なので一気に五郎小屋まで下る。なるべく右に行き、小屋正面の壁を小刻みなターンで楽しむ。三俣蓮華の向こうに端正な三角錐の笠ガ岳が大きい。信州が近い！、を感じさせた。小屋の弁当がまあまあ美味い。

蓮華を上る。午後の陽光がキラキラと照り返し暑い暑い。まるで夏のような。昨夜、19時の天気予報は夜半から雨。でも、あと槍だけだからイイや。3日間の快晴に感謝、感謝。2500m付近でまた熊の足跡を発見。熊は人間と違い、尾根を横断しているから直ぐ分かる。昨日より更に鮮明で爪跡がハッキリしている。今朝のものだろう。翌日、停滞時、双六小屋のオーナーの小池さんの話では、同じ日、雪渓を猛スピードで「クマセード」で遊んでいるのを、目撃したそうだ。だけど、こんな高所で餌が有るのかなあ。

蓮華を越えると槍が！、槍が！、槍が！更に大きく！、大きく！早く来い！、来い！と呼んでいる。西鎌から槍の絶頂に向かって見事な岩稜が、まるで、自然界の「彫刻の神」が丹精したような光景を放っている。あんな所、本当に上れるんかしら、と思ってしまう位の怒迫力だ。(と、言っても冬2回やっているのだが・・・)

蓮華の次のピークから双六の科尔まで快適に滑る。この辺りで昨年苦勞したのがウソの様だ。下から二人来た。大きな荷物で、私より年配の方。黒部小屋BCで周辺をヤルとのこと。見れば靴は登山靴、ビンディングは404だった。滑りを目撃した話では、二人のシュプールはビッタシで見事だったとのこと。凄い方もいるのだ。励みになるね。

最後の頑張りで双六に上がる。ここも昨年苦勞した所だ。コーイチに携帯する。ここは縦走中、少ない中継点だ。彼は仕事で「グヤチ〜」を連発。気持ちは分かる。しかし、人生は二者択一なのだ。迎えに来て欲しいを示唆する。

さあ、本日のメイン・イベント、ハイライトだ。ここは未滑なので、どうしてもやりたかった所だ。快晴の槍に向かってGO〜、GO〜、GO〜。昨年の悔しさを、そして来れなかったカバチタレ達！の分もシュプールに思い切って刻む。圧巻は小屋裏の35度の斜面。正面に槍を見据え豪快に、大胆に、そして繊細に、優雅に落ち、舞う。ここに山スキーあり〜！。加藤も急斜面をものせずガンガンと続く。ドドドーと小屋の玄関まで滑り込む。ウ〜ン、イかった、イかった。

一年ぶりの懐かしい小屋着。時間的にも昨年より大分早かった。小屋は連休の谷間でガラガラ。ここは食事が素晴らしい。建屋も新しく気持ち良い。今年ほうるさいことを言わなかった。ただ、美味しい日本酒が切れて残念だった。ああ、熱燗をやりたかった！

今日のポイント

1. 停滞中の情報で、黒部五郎は頂上から滑りの尾根ルートも有りとのこと。やりたかった。
2. カール壁は初めての時は、慎重に。
3. 単独者は蓮華から小屋えのトラバース・ルートを来た。絶対、双六から滑りたい。



大雨のため停滞

雨の双六小屋で一期一会の交流をはかる

今日の一言

後藤=久し振りに囲碁をしたり、いい休養日になりました。小屋のオーナーの小池さん、宿泊の若い人と交流出来て良かった。

加藤=いいタイミングで雨。これも神の思し召し。いつもの突っ込みで皆を笑わせた。こんな日、笑いも必要だね。

天気予報通り夜半から大雨となった。今日、一日は降る予報。2600mの稜線で屋根がトタンなので、屋根裏みたいな部屋は雨風音が凄い。6時には朝食を摂ったが、停滞を決めた。勿論、10名程の宿泊者で出掛ける酔狂は居ない。入山して四日目でも疲れもピークだ。むしろ、「神の思し召し」とプラスし思考とした。

朝食が終わるとゾロゾロ談話室に集合。メンバーは“有名な会社”に25年勤めたのに最近退職(リストラされた?)した双六小屋に10年通う、独身風のアマチュア・カメラマン。旦那が禿げ、奥さんが仙台・太白山のテレマークの若夫婦?。五色ガ原から一緒の岡山君。昨日、鷲羽岳に行き遭難しそうになった?単独の若者。富山から来た寡黙な野村さん。伊那の関さん。天気図を取ってくれた若い二人連れ。など。

四方山話が始まった。意外なことに皆、山岳会に入っていない。私の悪い癖で次第にペースに巻き込み、今季の山スキーの話、千回登山の話で「煙に巻く」。私より若い人なので良く聞いてくれた。結局、組織に入りシッカリ学習しての山が「安全登山」と結論。ミニ登山教室になった。

後は囲碁、将棋、五目並べ、花札、挟み将棋、クイズなどなど。午後からは、オーナーの小池さん(63歳位)が5~6年振りに、この時期来られたとのことで懇談会。富山、岐阜の山小屋の会長をされているとのことで、トイレの問題など苦慮されていた。面白かったのが、槍沢をこのかた下ったことがないとのこと。信州は無視?。また、営業上でヘリスキーをやりたいが許可が下りないこと。黒部五郎小屋の権利を買ってやっているが、営業期間が短いなど、話された。全体的に小屋は金も掛かり大変という、印象だった。

TVが無いので、若い人が16時の天気図を取ってくれた。日本海のLが遅いが、何とか回復の可能性はある。期待で休んだ。

今のポイント

1. トランプがあれば良かった。麻雀がやりたいとの声大。
2. やっぱり熱カンをやりたかったね。

第5日目 5月1日 (小雨のち晴れ)

報告者・加藤秀子

双六小屋～槍ヶ岳～上高地

天を突く槍をバックに、槍沢を豪快に、華麗にシュブ

ール刻む

時間 起床5:00～双六小屋発6:45～千丈乗越10:20～槍ヶ岳11:58～槍沢ロッジ13:20～上高地18:00

今日の一言

後藤＝西鎌は思った程でなかった。槍に午前中に着いたね。待望の槍沢は記念に残る滑りだった。スキー選搬方法を工夫し楽しかった。加藤が頑張った。長岡・来生・笠間のお迎えが嬉しかった。

加藤＝オートルート縦走に大満足。滑りというより板を担いでの登山かな。それに滑りがちょっぴり加わってな感じ。ザラ峠の滑りが一番だった。でも超ウレシイ。

心配していた激しい雨風も朝方になって、やっと静かになった。これ以上停滞は嫌なので好天を信じ覚悟を決めて出発。昨日朝方テントから逃げてきた茨城県庁の5人のパーティーは、既に朝食を済ませ出発の支度をしている。私達も、ご飯前に準備を完了させ、朝食を済ませた後、馴染みになった顔ぶれに挨拶を交わし、小屋の人(番頭?・イイ人)が見送ってくれるなか、まだ小雨の残る表に飛び出した。

スキー板とストックはザックに付け、ピッケル片手に出発。ガスで視界はない。岩ゴロ道をジグザグに黙々と登っていく。フィナーレを飾る今日の行程に少し興奮しているのか、息継ぎがうまくいかず、最初の一步から喘ぐ。初心者でもあるまいし・・・と深く息を吸ったり吐いたり試行錯誤しながら歩いているうちに、本来を取り戻したのか息切れが止まった。

ガスに時折切れ間ができ、青い空がのぞく。縦沢岳に着く頃、千葉の岡山さんが追いついて来た。彼はアイゼンを履いていた。私達は雪が腐っているので、アイゼンに団子がつく方が怖くて装着はしていない。縦沢岳から、いきなりのナイフリッジの下りだ。両側が切り立ち緊張感が走る。風に吹かれてヨロケでもしたらと思うと、風がないのが何より有難い。慎重に下ってコルでホッとひと息。

夏道に入ったり、雪上に戻ったり、雪道のトラバースをしたりしながらで硫黄乗越を順調に進む。板を担いだザックがズンリと重いがあれから調子はすこぶる良い。CLに遅れもせずピタリと着き時間のロスがない。昨日の停滞は疲れも取れ無駄でなかった様だ。相変わらずガスで景色は見えないが、這い松を一つの目安にして高度を意識しながら歩く。

千丈乗越で一服。わっ。凄い。ジャンジャンジャジャーン。緞帳があがるようにガスが切

れて槍が目の前に現れた。西鎌尾根から望む槍は本当にデッカイ。正に天に突いている。感動的な一瞬に酔いしれた。その下は急斜面の素晴らしい千丈沢カールが広がり、《滑ってみた〜い》衝動にまたまた興奮。この頃には雨も完全に上がる。飛騨沢からの道の合流点で合羽の上下を脱いで暑さの調節を図る。今朝の天気ではどうしようもないかと思うが、飛騨沢からは人の気配がない。この沢の斜面も見事だった。来年はここをやりたい。切れそうな程の美味しい斜面に食欲をそそられ、ついでに腹も満たす。

此処からは槍へ最後の登りだ。飛騨沢上部を登り右にトラバース。CLの『気をつけろ』の張り詰めた呼びかけに神経を集中させる。とにかく傾斜が凄いのだ。滑ったら一瞬にしてカールの底へ吸い込まれるだろう。怖いのでどうしても身体が山側へ傾く。登りは階段状に付けたCLのステップを四つん這いでよじ登る。下は見ず、ひたすら上だけを見ながら登る。途中から夏道に戻り、山荘が見えてもう1回雪のトラバースでとうとう槍の肩へ到着した。

やりました。十分の九の完走の喜びをCLと握手で分かち合う。陽射しがキラキラと祝福してくれるかのように降り注ぎ、一点に落ち込んだ槍沢のきれいなカールが素晴らしい。夏に下から見上げた時は、遥か遠くに感じられたが、今見る限りでは槍沢も、一直線上にスッキリと直ぐ其処に見える。岡山さんは槍は初めてと槍へ向かう。自宅で待機している立山メンバーの長岡に携帯で連絡。扇沢に行くついでに、私達を乗せていってもらおう約束で時間を連絡して、沢渡《さとう》で落ち合う事になっているのだ。仲間は有難い。

いよいよフィニッシュだ。CLがヒラリと舞う。槍の直下は傾斜がきついと聞いていたが、今朝までの雨がしみこんで雪が腐っているのか、それともザラ峠や五郎カールをこなして多少の心のゆとりができたのか、さほど感じられない。雪は重く板の裏にまとわりつく。デブリやツボ足の跡やらに足をとられそうで、ギッコンギッコンと上下運動が激しく、とても快適といえる滑りではなかった。それでもやっぱり槍沢だ。此処を滑ってオートルートが完走と思うと、きっちり滑り込んで完成させたい。思ひのシュプールを十二分に刻んで槍沢ロッジで終了。5月の陽射しを身体いっぱい浴びての滑りに大感謝しながら……。

待たせては悪いと、休憩もとらずスキー靴のまま板を担いで横尾に急ぐ。横尾で軽登山靴に履き替え、加と一は板と靴をザックに付けたが、CLは両方付ける事ができず、板を2本くくって前と後に下げ紐をつけた。その前をCLが持ち、後を加と一が持って歩く。いわゆる昔遊んだ電車ごっこみたいなものである。これは最高のアイデアだった。何て言ったって、CLと繋がっているのだからゆっくり歩けない。嫌が応でも引きずられる事になる。そんな訳で速い事。速い事。一日で双六から沢渡まで行き着いてしまったのである。

丁度《さとう》に着いたという立山メンバーと懐かしい合流。タラコ唇の私の顔に皆驚いた。話もそこそこに風呂に入り、久しぶりの畳の上でカンパ〜イ。持参してくれた生物の刺身に舌鼓を打ち、さとうのふっくらご飯にかぶりつく。気風のいい女将さんの計らいで持参もok。我儘な客にも嫌な顔一つしない対応にいつも大感謝です。そしてテン泊の宿地、沢渡に赴いた。岡山さんも《さとう》で合流。明日扇沢まで旅の道ずれとなる。

今日のポイント

1. 強風時、椈沢岳の下りは細い雪稜で悪い。
2. 西鎌は碓氷乗越先から千丈乗越まで脆い岩場が多く要注意。
3. 西鎌上部はガスった時、右の飛驒沢に入り易い。
4. 槍沢は全く問題ない。物足りないくらいだ。
5. 横尾から長いのでズックは必携。



今山行の総括

成功した主な要因

1. 天候に恵まれた・・・最低四日は必要なルート。四日連続晴天は奇跡なので、今回の様に、前半三日晴れ、停滞後槍が理想か。いずれにしろ、理想は日程を決めて行くのでなく、好天を見計らって行く事が必要だ。過去の記録でも、結構、悪天候で敗退がある。特に、薬師越は晴天であって欲しい。
2. 去年の経験が無駄でなかった・・・長い四日間。総て未知ではプレッシャーが大きい。去年の太郎平～双六の経験がとても気持ちを楽にさせた。西鎌を冬二回経験も良かった。一回、ショートで何処かやりたい。
3. 体力勝負・・・滑りは無論だが、歩きが多いこのルートでは、体力が絶対条件になる。荷物はスキーを背負って20Kgになる。これで12時間行動出来る体力が必要。
4. 当たり前だが、足が揃っていること・・・妥協したメンバーでは絶対行けない。納得したパーティーで臨むこと。人数は最大、四名だろう。

装備

ザック（今回は40L）・ミニ温度計・スキー・ワックス・兼用靴・スパッツ・ストック・クート（必携）・シール・修理道具（ペンチ・針金）・タオル
アイゼン（必携）・ピッケル（必携）
シュリング2本・カラビナ2枚
サングラス・ゴーグル
ツェルト・シュラフカバー・ガスコンロ（小）・食器1
ビーコン・ゾンデ・スコップ（雪洞用で必携）
行動食・テルモス・梅酒・ブレンダー
カメラ・フィルム5本
着替えは靴下のみ1足（汗で濡れるので交換して使用）・ある程度しっかりしたズック（必携、横尾から使用）
地図・コンパス・手帳・携帯電話・無線機（必携、殆ど携帯は使用出来ない）
三島大社のお守り・ホイッスル・緊急名簿・簡易医薬品（豆対策用具必携）・ビニール袋
ヘッドライト（ベツル）・電池単4、3本）・高度計兼時計
ヤッケ兼雨具・帽子・目出帽・厚手手袋・薄手手袋・オーバーミトン・トイペー・歯ブラシ

予算

小屋代は平均8500円位で4泊。ビールは500円。写真は同時プリが10000円。扇沢車回送は長岡君に5000円。室堂への交通費が6000円。何だかんだで80000円位でした。（ヨーロッパに行くつもりだったので、それに比べたら安く楽しめた）